

くまもと経済

C 表紙の人
Cover Story

創業130周年、既存事業の“リモデル”推進
藤井 章生 レイメイ藤井社長

10 2020
月号
VOL.472



コロナ禍で終盤迎える21年卒採用就職戦線

WEB 活用で学生の採用地域拡大

「第2波」影響大 旅客回復は来年度以降に コロナ禍の人流・物流

熊本にプロ野球球団／明日を担う若手経営者

特集

専門分野生かし地元企業の課題解決に貢献 学生のクリエイティブな発想に期待



中山 峰男
学長

崇城大学

「受験勉強という受け身の学習を続けてきた若者に、自分で考え学ぶ姿勢を身に付けて欲しいと考えています」と話す崇城大学の中山峰男学長。同大学では「学生の心に火をつける」をモットーに小中高と大学受験のための勉強を続けてきた学生に、強い好奇心をもって自律的、主体的に学習に臨める環境づくりに力を入れている。

データサイエンスはデジタル社会を生き抜くための必須項目

新型コロナウイルスは、世界に大きな打撃を与えた一方で、急速なオンライン化が進展する契機ともなった。同大学ではそうした社会の変化に対応すべく、今後大きく発展することが期待さ

れているビッグデータ活用のための新技術「数理・データサイエンス」についての授業（特殊講座「データサイエンス入門」）を今年度の後期から全学科に新たに取り入れる。国が推進する大学の数理・データサイエンス教育強化方策に基づくもので、九州における同教育の拠点大学である九州大学と提携し全学的な取り組みとして実施していくとしている。

中山学長は「膨大なデータを分析・判断し、そこから新たな知見を見出すデータサイエンス技術は理系、文系を問わず、これからのデジタル社会を生きていく若者にとって必要な知識」とその重要性について語った。

さらに、今年度より情報学部情報学科を未来情報コース「知能情報コース」「電子通信コース」に改編、更に学内にIoT・AIセンターをオープンし、高度な情報通信技術を駆使して地域や社会の課題を解決できる人材育成を狙う。

地域社会との連携を積極的に進める同大学では、学生が地元企業の課題解決のスキームに取り組むPBL（Project Based Learning）問題解決型学習型科目を取り入れ、少人数のチーム学習をとおして問題解決までの基本的な能力を身につける。1、2年次には企業の一般的な課題に取り組み、3年次には学生の専門分野を生かした課題解決において自身の学び（学科）の専門を社会で生かす力を身につけていく。中山学長は「時代がデジタル化へと進む中で、課題解決の手法は総合的な知見を駆使するたいへんクリエイティブな作業。かつての日本人は「ワイワイガヤガヤ」と部署の垣根を超えたフラットなコミュニケーションの中で各部署のアイデアを結集し、クリエイティブな新製品の開発をしていました。本学ではデジタル的思考に加え、こうしたクリエイティブイノベーションも磨いていくことを大切にしたい」と語った。

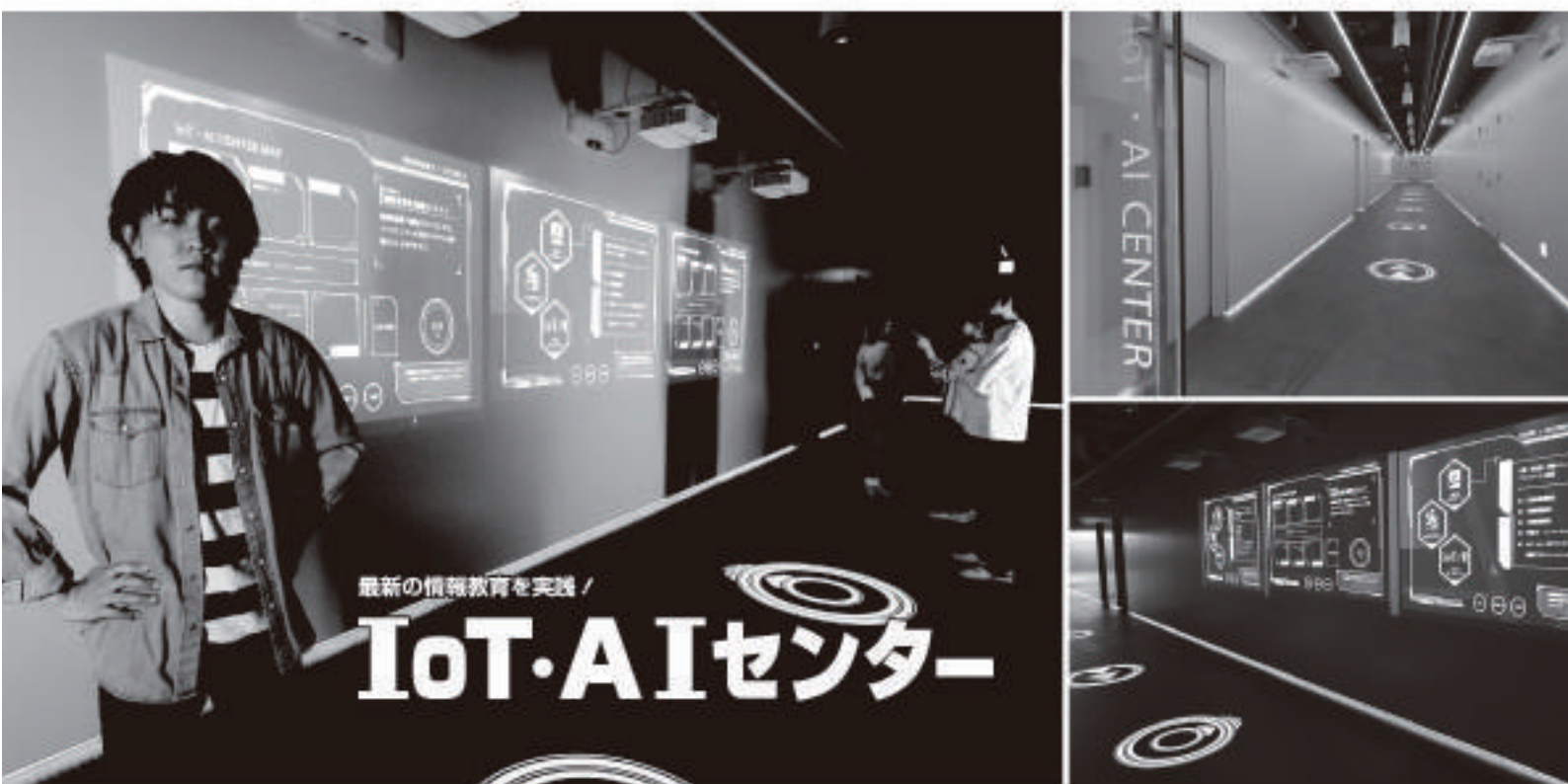


▲コロナ禍での実習の様子

工学部宇宙システム工学科航空操縦学専攻には、将来のエアラインパイロットを目指す若者が日本全国から集い、その夢を実現しようと、日々専門知識の修得と訓練に励んでいる。教育から訓練まですべてが大学の施設で一貫して学ぶことができる環境であり、そのような一貫教育を国内で行っているのは同大学だけ。卒業生は毎年パイロット訓練生として国内大手エアラインをはじめ多くの航空会社に就職している。



学生の心に火をつける



最新の情報教育を実践 /

IoT・AIセンター

崇城大学
SOJO UNIVERSITY

薬学部	生物生命学部	工学部	情報学部	芸術学部
薬学科	応用微生物工学科	機械工学科	情報工学科	美術学科
	応用生命科学科	ナノサイエンス学科	情報工学科	デザイン学科

〒860-0082 熊本市西区池田4-22-1

TEL 096-326-6810

ホームページ

検索